

土屋和夫 監修 臨床歩行分析懇談会 編
臨床歩行分析入門

(B 5 判 210 頁 5,850 円 1989 年 医歯薬出版 刊)

伊藤 利之

(横浜市総合リハビリテーションセンター)

本書の「歩行分析の歴史」によれば、科学的な手段を用いて人間の歩行分析を始めたのは 19 世紀末からということである。しかし、それが生体力学の立場から本格的に研究開発されるようになったのは 20 世紀半ばで、我が国においては 1938 年に渡辺氏によって行われた研究が最初だそうである。

我が国のリハビリテーション分野における歩行分析研究は、最近 10 年間に目を見張るほどの進展があり、多くの研究報告が行われるようになった。しかも、歩行分析システムとして次第に定着しつつあり、今や機能訓練を行う際の歩行能力の評価として臨床応用されるに至っている。本書はこのようなとき出版された最初の単行本

であり、まさに時宜を得たものといえよう。

臨床歩行分析と称する新しい分野の学問は、工学サイドからの歩行分析研究と臨床医学との間のギャップを埋めるためのものである。本書を監修された土屋和夫先生を中心に、1973 年から“臨床歩行分析懇談会”がもたれ、これら両者の間で討議を重ねてこられたが、この会に参加される人たちの共通基盤となる知識をまとめ、基礎編、臨床応用編に分けて研修会を開催することが計画された。本書は盛会だったこの研修会のテキストとしてまとめられ、加筆整理されたものである。したがって、臨床医学と工学の両者を結ぶための努力が種々施されており、共通

言語としての「用語集」や、読者の立場や研究対象に応じて、今必要な情報を効率良く探索するための「期待別探索マップ」がつけられている。

本書は、下記に示したように第 1 章～第 6 章で構成されており、歩行分析に関する概念、歴史、方法論から、代表的な分析項目ごとの計測方法や評価方法、そしてこれら分析項目の相互関係と総合分析、最後に臨床応用としてどのように活用されているかの実例などが示されている。内容的には全くの初心者のみを対象とした単なる「入門書」ではなく、実際の歩行分析に携わっているものに役立つ知識が豊富に掲載されており、さらに研究を発展させたいと考えている人々たちに対する「次への入門書」という方が適当かもしれない。

第 1 章：歩行分析概念

第 2 章：時間・距離因子の分析

第 3 章：運動学的因子の分析

第 4 章：力学的因子の分析

第 5 章：総合分析

第 6 章：臨床応用